

## 第 17 回シンポジウム開催報告(2024 年 5 月 25 日開催)

### 研究普及委員会

『これからの情報システム学を構想するために』をテーマに情報システム学会第 17 回シンポジウムを 2024 年 5 月 25 日に青山学院大学青山キャンパス総研ビルにて開催しました。参加者は、正会員、賛助会員合わせて 31 人、非会員 2 人、計 33 人でした。

基調講演は、麗澤大学の小塩篤史教授が「生成 AI と人にやさしい情報システムの可能性」と題して、生成 AI の動向とそれを利用した DX の推進について解説し、現在の生成 AI を情報システムに組み込んだ際の問題点を投げかけました。そして、人にやさしい情報システム、人にやさしい AI の実現に必要なものとして正しい知性とやさしい知性は違うこと、情報システムにおける三方よしの AI 実装が AI と共生する未来へのカギとなること、やさしいバランスの取れた設計技術がこれからますます重要になることを説明されました。

その後、浦昭二記念賞受賞者による記念講演が行われました。

静岡大学名誉教授、愛知工業大学客員研究員の水野忠則先生が「コンピュータネットワークの発展と高等教育人材の育成」と題して講演されました。第一部ではネットワークの発展についてのろし通信から移動固定融合ネットワークまでを解説されました。第二部では技術の伝承には書物が有効であるとして、タネンバウム先生の著書の翻訳や未来へつなぐデジタルシリーズ (全 42 冊) の刊行による啓蒙活動について説明されました。第三部では指導教授として博士を 100 人輩出した経験に基づき、博士、特に社会人博士の育成方法、学位取得方法及び学位取得のメリットについて解説されました。

いずれの講演でも活発な質疑応答が行われました。

また、講演終了後、有志で懇親会を行いました。

基調講演の内容についてのアンケートでは、「現在の AI の市場動向を踏まえたうえで、人に寄り添うとはどういうことか、また、現場レベルでどう活用していくのが良いか、実例を交えてご説明いただけた」「SE として働いては気づけない視点、考え方を学べた。AI に対するマインドが変わった」「ケア的知性について、さらに考えを深めたい」「自身も生成 AI の案件に携わっていて、今後役に立ちそうな話が聞けた」「人にやさしい AI という点がよい」などの意見が寄せられました。